

# ごっこ遊び楽しむ

## たかおか 園児が立案し準備



マリオカートごっこを楽しむ園児たち(上) お魚が釣れたよ



富士市厚原のたかおかこども園はこのほど、園児が自分たちでお店屋さんごっこやゲームコーナーなどのブースを企画・運営する「たか幼まつり」を

開いた。0歳から年長児までの全園児222人が参加。3日間にわたり、年長児がお店屋さんごっこ、年中児がゲームコーナー、年少児が

キャンプごっこなどのブースをクラスごとに設け、店員やお客さんになりきって遊んだ。年長児は毛糸や粘土などで作った焼きそば

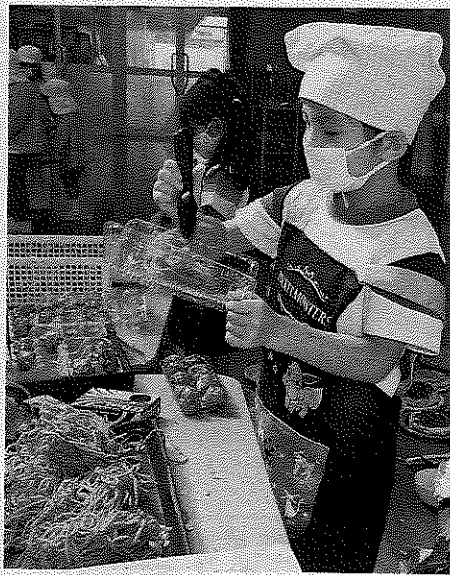
やたこ焼き、ドーナツ、パフェ、弁当を販売するブースを設けた。園児らは配られた「お金」で食べ物を買うごっこ遊びを楽しんだ。

焼きそばのブースでは、黒い画用紙を貼り付けて鉄板を表した段ボールの上に焼きそばを見立てた茶色い毛糸を乗せた。年長児は「いらっしやいませ」と盛んに声を掛け、お

金を受け取ると本物の屋台のように容器に盛り付けて提供した。年中児はマリオカートごっこ、魚釣りゲーム、ボール転がしといったゲームコーナーを開いた。

では、テレビゲームに登場する車をイメージした段ボール自動車を抱え、園庭に設けられたコースを駆け抜けた。魚釣りゲームはさまざまな魚やタコなどを釣り上げ、友達と大きさを比べるなどして楽しんだ。ボール転がしでは、スロープの先にあるワニの口に入るように転がし、見事に入ると「やったー」と笑顔を咲かせた。

たか幼まつりは、ごっこ遊びを通じて子供たちの主体性や自主性、協調性などを養う目的で毎年開催。例年は保護者も招いていたが、今年は新型コロナウイルスの感染防止のため、園児のみで行った。



店員さんになりきって焼きそばを提供した。

渡邊宏行園長は「学園祭のように、子供たちが自主的に案を出し合い、まつりに向けて準備を進めてきた。どのブースも子供たちの創意工夫が伝わってくる」と意義を話した。